



平成 29 年 4 月 21 日

報道関係各位

「馬耕体験プロジェクト」取材のお願い

日頃は、本学へのご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、スポーツ健康学科中島弘毅ゼミの学生が地域の方々の協力を頂き、「第 6 回馬耕体験プロジェクト～子どもの笑顔と成長を創り出す産業技術史と自然とのふれあい～」を実施します。昔懐かしい、馬による田おこしを小学生が体験します。

最近では見かけることのない馬による田おこし、昔懐かしい日本の原風景は、小学生はもちろん大学生にとっても初めて目にする光景かと思えます。是非、取材報道をお願いいたします。

記

1. 日時：4月29日（土） 午前9時30分～12時
9時30分～ 乗馬体験
10時30分～12時 馬耕体験
2. 場所：松本市和田 田中勉様田んぼ（信州名鉄ハブターミナル西側）
3. 内容：馬耕体験、ポニー乗馬体験、えさやり体験、トン汁提供

※詳細は添付資料を参照してください。

以上

第4回馬耕体験プロジェクト開催にあたって

松本大学人間健康学部長 等々力賢治

来たる4月29日、6回目となる「馬耕体験プロジェクト」が開催されます。松本大学人間健康学部の中島研究室を中心に、多数の関係者の協力・協同によって実現する運びとなったことに、心より敬意を表します。と言うのも、馬耕は、昭和30年代前半頃を境に農作業が急速に機械化されたことによって、私の記憶からはまったく消え去っていたからです。

幼かった頃、近所に馬を飼っていた家があり、それにたった一度ですが乗せてもらったことがあります。その時の馬の背中が高かったこと。大人からすればさほどでもなかったのですが、小学校入学前の私にとっては、とてつもない高さだったのです。多少怖かったのと共に、その記憶は今もなお鮮明です。それをきっかけに、よく馬を見に行き、草を取っては与えたりもしました。優しい動物であり、なんとなく好きになったからだと思います。

しかし、それからしばらくして馬は消え、耕耘機やトラクターが田んぼの主人公になりました。以後、近年流行の乗馬クラブなどはともかく、田んぼで働く馬の姿などまったく見かけたことはありません。それは、かつての農村文化であった鋤や馬具、そして田んぼの中のオケラなどの消滅とも軌を一にしています。そしてそれは、土に親しむこと、そして、強い農業そのものについて考えることを希薄にしてしまったのかもしれない。

イベントとしての馬耕が、そうした事柄に目を向けさせる直接のきっかけになるなど単純には思いませんが、その経験が参加した子どもたちの記憶に鮮明に刻まれるのは確かだと思います。馬の大きさと優しさ、目の前で鋤によって耕される田んぼの土、そして馬を操る人たちの腕前、それらが、あるいはその一部が子どもたちの経験と記憶を豊かにし、さらには農村文化や農業、自然や環境問題などにも想いを馳せることになるであろう、大きなきっかけになることを信じ期待するものです。

会場案内図

